



“とり年”とは？

—— “とり年”の意味を知り、自分をパワーアップさせよう ——

新年あけましておめでとうございます！ 今日から3学期が始まりました。3学期は1年間の学習の総まとめの学期です。これまで努力してきた学習の土台をしっかり踏み固め、4月からの新しい学年にジャンプしていくのです。土台がぐらぐらしていたり、踏み固められていなかったりすると、大きくジャンプすることはできません。大きな夢を実現していくためには、自分の足元をしっかり踏み固めること、小さなことでも今自分がやるべきことを全力でやり遂げること、こういう姿勢が大切だと思います。中学生の中には帰国して日本の高校を受験する生徒もいます。これまで身につけてきた力を発揮し、自分の希望が実現できるよう全力で頑張ってください。

希望

チューリツヒ日本人学校便り

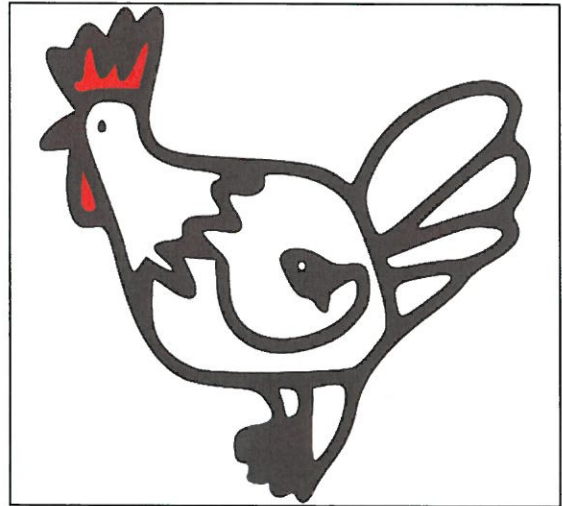
平成29年1月4日発行

第32号

発行人 校長 鈴木史良

さて今年、西暦2017年について考えてみましょう。日本の元号でいうと平成29年。干支（えと）でいうと“丁酉（ひのととり）の年”になります。“とり年”なのに、なぜ“鳥年”または“鶏年”と表記されないのでしょうか。

2学期の終了間際、何年生の声だったか、職員室前の廊下から「子丑寅卯辰巳馬未申酉戌亥。」という元気のよい発声が聞こえてきました。間近な正月にちなんで干支を暗唱したのでしょうか。この干支に出てくるのが“酉”という漢字です。干支はもともと昔の暦で年、日、時刻や方角まで表しました。昔の人々の生活には切っても切れないほど大切なものだったのです。その十二支に動物名をつけたのは後の時代に覚えやすくするためだと言われています。“酉”の音読みは「ユウ」です。この漢字は、収穫した作物を抽出する意味や、収穫できる状態にあることから“実る”という意味ももっているそうです。穀物や果実の成熟した状態を表し、転じて物事が頂点まで極まった状態を示す漢字と言われています。昨年の干支である丙申（ひのえさる）という漢字が、伸びることや植物の実が成熟して香りと味が備わっていくという意味をもっていたので、今年の“丁酉”は昨年の“丙申”を受け継ぎ、さらに発展させた状態を表しているということがわかりました。



この漢字を用いた字ですぐ頭に浮かぶものに“酒”があります。“酉”という漢字は“酒”という漢字と無縁ではありません。壺のなかに成熟した果物や穀物を入れ、水を加えて置くと発酵して酒になる、ということで“酉”という漢字に水を表す「サズイ」をつけると“酒”という漢字になるのも納得できます。そう考えると、“酉”という漢字が、上部がくびれた酒壺のように見えてきませんか。

さて、この“酉”とニワトリがどうして結びついたのでしょうか。ニワトリはキジ目キジ科の鳥で、弥生時代あたりから家禽として飼われていたようです。古名を「カケ」といいました。酒の古名は「キ」。これが母音変化して「ケ」になり、接頭語の「サ」がついて「サケ」になったという説も有力なので、発音の類似性から“酉”をニワトリに当てたのではないかと想像をふくらませるのも楽しいことです。

3学期からの外国語授業補助及び英語補講教員の変更について

2学期末の児童の退学（帰国）により、中学部第1学年に加えて小学部第3学年も欠学年となりました。それにとまなう派遣教員の受け持ち時数の適正化を図るため、ドイツ語、英会話授業の補助教員、及び小学部英語補講担当教員を以下の通りに変更させていただきます。期間は3学期末までとさせていただきます。ご了解のほどよろしくお願い申し上げます。

- ドイツ語（木2校時・小4～6年生）…… 廣澤先生⇒ 山田教頭
（木3校時・小1～3年生）…… 桑野先生⇒ 前田先生
- 英語（水1校時・小4～6年生）…… 廣澤先生⇒ 小林先生
（水2校時・小1～3年生）…… 桑野先生⇒ 鈴木校長
- 小学部英語補講（水7校時・小1～6年生） ⇒ 山田教頭、前田先生

スキー教室、来週に迫る！

1月11日(水)～13日(金)に、今年度のスキー教室を2泊3日の日程で実施いたします。場所は例年どおりフルムサーベルグです。今回も公共交通機関(SBB)を使っただけの移動となりますので、集合時刻は11日午前8時10分、VELO横です。帰りは13日午後4時05分着ウスター駅着の電車で、駅噴水前で到着式終了後の解散となります。参加児童生徒は小学部9名、中学部3名の計12名、引率教員は校長以下7名(通訳も含む)で、スキー教室実施期間中は教頭が学校の留守を預かります。

<スローガン> スキーをすきー！になろう

- 1 自分だけが楽しむんじゃなくて他の人も楽しめるようにする。
- 2 スキーがうまくなろう。
- 3 いいところを見つけ合う。

上記スローガンとめあては、スキー教室中どの子もみな意識し、自分の行動につなげようと努力することでしょう。安全に気をつけ、事故や病気、怪我のない行事になるよう、職員一同細心の注意を払っていきたいと思います。



ホテル前のゲレンデ(12月下見時)